

経営学部における統計学講義で実践した 企業との連携協定に基づく グループワークの成果報告

関 哲人 北海学園大学経営学部
鈴木 雄大 北海学園大学経済学部
山岡 英二 油谷 弘洋 久保田 佳輝 並木 翔太
北海道放送株式会社 メディア戦略部

1

発表次第

- 1.発表の目的と背景
- 2.グループワークの概要
- 3.グループワークの事後評価
- 4.結論と今後の展望

2

発表の目的

- 本学経営学部における統計学講義で
実践したグループワークの成果を検証する。
- ・ 産学連携協定に基づく活動のあり方を
検討する。



経営学部における統計教育のあり方は？

3

グループワークの経緯1

● 北海学園大学と北海道放送株式会社（HBC）の包括連携協定の締結について

北海学園大学は本日、北海道放送株式会社（以下、HBC）と連携と協力に関する協定を締結し、勝田直樹社長と安藤敬真学長の臨席の下、協定書への調印式を行いました。協定書の発効日は2018年10月1日となります。

本学は道内最古・最大規模の私立大学として、北海道の地域・社会が直面している様々な課題の解決に寄与するために、多様な主体との連携・協働の取り組みを推進しています。

本協定もそうした取り組みの一環と位置づけられるものであり、情報・通信環境やそれを取り巻く経済圏・生活文化が急激な変容を遂げる時代の中で、北海道に根ざした歴史ある放送事業者であるHBCと連携・協働し、マスメディア／ソーシャルメディアの未来や可能性を探究することを目指すものです。本学とHBCがそれぞれの有する資源を持ち寄り、協働プラットフォームとしての「ヴァーチャル・シンクタンク」を形成し、そこを拠点に研究・実践・実験等に取り組むことを通じて、地域・社会の発展、教育・研究の向上とそれを通じた人材育成、地域メディアの発展に寄与していくことを目的としています。

- ・ 北海道放送株式会社(HBC)と
本学(HGU)が包括連携協定を締結

<http://hgu.jp/>

4

グループワークの経緯2



・協定に基づき実施している活動

- ・若者のメディア利用に関するアンケート調査
(2018年10～11月に「経済統計学」、「経営統計学」で実施)
- ・ヴァーチャル・シンクタンク(正式名称「北海道次世代メディア総合研究所」=通称「もんすけラボ」。2019年4月から正式立ち上げ)
- ・大学祭(十月祭)における連携の取り組み
(2018年10月6日に実施)

5

グループワークの経緯3



2019年9月18日
協定調印式



<http://hgu.jp/>

6

グループワークの実施



■実施講義：経営統計学概論Ⅱ

- ・1年次後期開講
- ・2018年度受講生：

昼間部360名、夜間部120名

- ・グループワークの参加：

昼間部218名、夜間部72名

- ・北海道放送株式会社(HBC)の協力で実施

※経営統計学概論Ⅰ：主に記述統計

(含む：相関係数、統計的意思決定)

※経営統計学概論Ⅱ：本グループワーク+推測統計

昼間部(1部) 火曜
14:20-15:50
夜間部(2部) 火曜
17:50-19:20

7

グループワーク4回の進行目安



■10月30日 HBC担当者が出講回

- ・HBCによる講義(問題提起)
- ・メディアアンケート回答
- ・グループの顔合わせ

11月6日

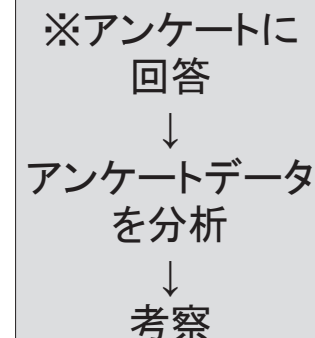
- ・グループワークの手順説明
- ・グループワーク

11月13日

- ・グループワーク
- ・課題提出

11月20日 HBC担当者が出講回

- ・優秀チームに対するコメント、
- ・HBCによる総括



8

講演風景(第1回目、第4回目) **HBC** × **HGU**



上2枚：山岡氏(HBC)による
ご講演

左：鈴木先生(経済学部)
※経済学部でも講演・
アンケートが実施

9

講演内容(第1回目、第4回目) **HBC** × **HGU**

- ・第1回目(10月30日)
メディアの進化・テレビ局の経営戦略
- ・第4回目(11月20日)
メディア・リテラシー

10

メディア調査アンケートの **HBC** × **HGU** 実装

- ・ Questantによる **webアンケート** を
HBCが実装
- ・ 項目はHBCと本学(関、鈴木) の共同
で作成

11

メディア調査アンケートの **HBC** × **HGU** 項目

■ 設問は59問

2部構成

- ・ 大学生における平時のメディア活用
- ・ 北海道胆振東部地震時における
メディア活用

※記名式

12

グループワークについて



- ・ 5人から7人のグループを結成した。
※6人のグループが最多
- ・ 第2回(11月6日)、第3回(11月13日)の2回分を実習に充てた。
- ・ 10月30日に回答したアンケートデータを分析し、内容を考察した。

13

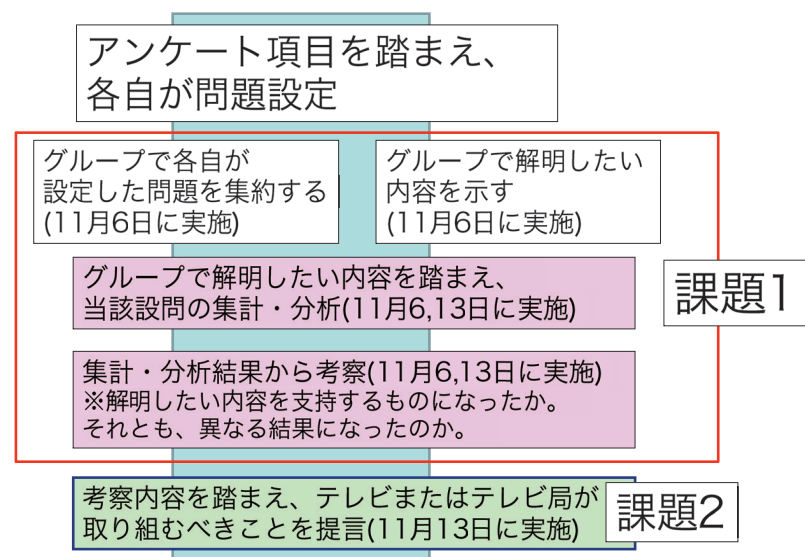
グループワークの風景



- ・ 大教室でのグループワーク
- ・ 担当教員1名が指導
- ※TA、SAは無し
- ・ 11月6日のみ、HBC油谷氏も立会

14

グループワーク課題の手順



15

グループワーク課題内容



- ・ 課題1：グループで立案した、解明したい事項に照らし合わせて、まず今回実施したアンケート設問のうち3問から5問選びなさい。それら設問について単純集計またはクロス集計を実施し、考察しなさい。
- ・ 課題2：グループのアンケート分析結果を踏まえ、HBCが取り組むべき内容を提案しなさい。

16

課題1の手順と解答例

当方でフォーマットを用意

課題立案

1-a.大学生のTVへの信頼度はどのようなものなのだろうか。

根拠の提示

1-b. Q31, Q32

※本設問の集計・分析を実施

結論・考察

1-c. Q31選択肢xが△%、Q32選択肢xが△%であることから、大学生はTVを（程度もあると良い）信頼している（または、信頼していない）と考えられる。

24

本グループワークの評価 評価アンケートの実施

- ・ 2018年11月20日～28日
 - ・ 学内ポータルサイト上で実施
 - ・ 記名式
 - ・ n=218(回答率：75.1%)
 - ・ 評価アンケートの構成
 - 参加理由(複数回答形式)
 - 成果に関する項目(7段階尺度で回答)
- 低い 1 2 3 4 5 6 7 高い
- 自由記述

18

グループワーク評価分析設問

- 設問1 アンケートデータ分析に興味がありましたか。
- 設問2 統計学に興味がありましたか。
- 設問3 グループディスカッションに興味がありましたか。
- 設問4 経営戦略に興味がありましたか。
- 設問5 マーケティングに興味がありましたか。
- 設問6 テレビの実態に興味がありましたか。
- 設問7 テレビ以外のメディアの実態に興味がありましたか。
- 設問8 マスコミ業に興味がありましたか。
- 設問9 テレビ局に興味がありましたか。

19

グループワーク評価分析結果

各設問の記述統計(予稿表1)

	平均値	標準偏差
設問1	5.70	1.001
設問2	5.39	1.102
設問3	5.57	1.127
設問4	5.69	1.035
設問5	5.75	1.054
設問6	5.79	1.083
設問7	5.72	1.089
設問8	5.42	1.258
設問9	5.42	1.235

全体的な数値は高い(7に近いほど高い)

20

グループワーク評価分析結果 **HBC** ×

主成分分析結果(予稿表2)

	第1成分	第2成分
設問1	0.693	0.312
設問2	0.75	0.268
設問3	0.617	0.399
設問4	0.724	0.408
設問5	0.714	0.493
設問6	0.689	-0.497
設問7	0.748	-0.437
設問8	0.823	-0.356
設問9	0.776	-0.45
固有値	4.772	1.505
寄与率	0.53	0.167
累積寄与率	0.53	0.697

第1成分

「講義・グループワーク
への総合的な興味・
関心に関する成分」
(総合的な指標)

第2成分

「講義・グループワーク
でより重視した内容に
関わる成分」
(学部の学習内容
それとも題材のどちらに
興味を持ったか)

21

グループワーク評価分析結果 **HBC** ×

主成分得点を用いた回帰分析

		モデルA		モデルB	
	r	b	β	b	β
第1成分得点	0.066	0.239	0.084	0.239	0.084
第2成分得点	-0.022			-0.022	-0.008
切片		28.573		28.573	
R ²		0.007		0.007	
Adjusted R ²		0.003		-0.002	
F		1.533		0.78	

従属変数：期末試験得点

※どの係数も有意にならず、分散分析も有意にならず

主成分得点は期末試験素点に影響を与えない

22

グループワーク評価分析 考察



- ・記述統計より、全体的な興味・関心の度合いが高い。
- ・主成分分析より、統計学への興味・関心そのものに関わる成分が抽出できていない。
- ・主成分得点が期末試験得点に影響を与えない。

28

今後の展望



- ・統計学講義で実施するグループワークでは、一定の学修成果を得た。
- ・産学連携協定に基づく協定企業の積極的な協力・取り組みの一例を示した。

(今後の課題)

- ・グループワークの内容から統計学そのものへの興味・関心に、より結び付けられるかどうか。
- ・連携企業の事業内容・取り組みが学生に、興味・関心を、より持ってもらえるかどうか。

29